

都市再生整備計画 フォローアップ報告書
半田運河蔵の街・ごんぎつねの里地区

平成29年3月

愛知県半田市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	人/年	191,950	218,710	218,913	確定 見込み	○ ●	あり なし	218,928	平成28年11月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	新美南吉記念館の来場者数は減少したもののミツカンミュージアム・酒の文化館・新美南吉記念館の来場者数が増加し、その効果が周辺の酒の文化館へも波及した。その結果、両施設の来場者数が増加したため目標を達成した。半田赤レンガ建物や半六庭園などの観光拠点や車両系サイン、観光案内板、回遊ルートの路面表示などの整備により各施設間の回遊性を高めたことも寄与しているものと考えられる。	
指標2	Pt	-1.56	-0.59	-1.26	確定 見込み	△ ●	あり なし	-0.76	平成28年12月	△			<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる
指標3	Pt	-1.44	-0.17	-1.37	確定 見込み	△ ●	あり なし	-0.20	平成28年12月	△	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	防災拠点となる市役所の整備や避難場所の耐震改修等により、評価値からの大きな改善がみられるものの、各地での度重なる災害を踏まえ、市民の防災意識が高まるとともに市民ニーズも高まったため目標達成には至らなかったものと考えられる。	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	Pt	3.00	/	3.46	確定 見込み	/	/	3.60	平成28年12月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	観光拠点施設及びその周辺などが各所で整備されたことや車両系サイン、観光案内板、回遊ルートの路面表示の整備により回遊性が向上したことから評価の値の向上につながった。	
その他の数値指標2	Pt	3.00	/	3.11	確定 見込み	/	/	3.14	平成28年12月	/			<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した 今後のまちづくり方策(事項)	実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項	
・成果を持続させる ために行う方策	知多半田駅、半田駅周辺における出店促進	駅前の再開発ビルを始めとする中心市街地、鉄道駅周辺等において商業施設の新設・改装に係る費用に対し補助を実施した。(商業施設助成事業)	商業集積地への新規出店の一助となり、商業の活性化が図られた。また、既開業事業所においても店舗改装整備による個店の魅力の創出に繋がった。	これまで、中心市街地、鉄道駅周辺を中心に補助を実施してきたが、商店街の存する他の区域についても補助対象区域とするよう要望があり、平成29年度より対象区域を拡大し制度を運用することとした。
	観光振興のための基盤整備	半田運河周辺道路を観光客等がまち歩きを楽しみながら回遊できるように源兵衛橋以南の右岸側道路について、脱色アスファルトにより道路の高質化を行った。(半田運河周辺景観道路整備事業)	平成27年にオープンしたミツカンミュージアム(MIM)や蔵のまち公園の周辺道路の高質化を行うことにより、良好な景観が形成され、観光客や住民から好評を得るようになった。	半田運河周辺道路の高質化未整備区間について整備の進捗を図り、運河周辺道路全体を高質化された道路で回遊できるようにする。
		観光客が訪れる主要施設に設置された観光案内板11か所の更新を行った。(観光案内板更新事業)	主要施設の周辺マップや観光施設の写真を更新するとともに回遊ルートを表示させることで観光客の利便性や回遊性の向上を図ることができた。	観光客が快適に観光施設間を回遊できるように、情報を適宜更新し、最新の状態に保つことが必要である。
		半田運河周辺を車で訪れる観光客のための蔵のまち東駐車場を案内する車両系サインの整備や同駐車場から半田運河へと誘導するための路面サインの設置を行った。(サイン整備事業)	半田運河を訪れる観光客に対する駐車場の利便性向上が図られた。	半田運河への集客向上のため蔵のまち東駐車場から半田運河までの道のりを楽しみながら歩けるような仕掛けづくりが必要である。
	観光振興のためのイベント等の推進	本市の観光拠点施設である半田赤レンガ建物について、指定管理者制度を活用し、民間事業者のノウハウを生かした運営を行った。(半田赤レンガ建物管理運営事業)	指定管理者のノウハウを活かし、市内の他の民間観光施設等との連携を深める形で、季節のイベント等を開催し、観光バス誘致など行政のみでは行えないPRや、誘客促進を行うことができた。	市内の民間の施設や店舗との連携を深め、更なる魅力あるイベント等の展開に努めるほか、リピーター獲得の視点も持って、継続的に魅力のPRや集客を行うことが必要である。
		観光客対応や観光イベントの企画・運営等、魅力ある観光地づくりの中心的存在となる半田市観光協会の活動について支援を行った。(半田市観光協会支援事業)	半田赤レンガ建物や市内の他の観光施設のオープンに伴って、観光客数が増加しており、観光協会の精力的な活動と相まって、観光客のおもてなしの強化が図られた。	一層の観光振興を図るうえで、観光協会に求められる役割は増しており、持続的な協会運営に向けた支援が必要である。
	避難場所の充実及び市民への周知	避難所において紙オムツや消毒薬など公衆衛生に係る資機材の充実を図った。(災害対策資機材整備事業)	避難所内の衛生環境の向上を図ることができた。	避難所における要配慮者用の資機材(アレルギー対応食やダンボールベッドなど)を更に充実させる必要がある。
		防災マップ及び津波避難計画の配布を行った。	住民への避難経路及び避難所等の周知が進んだ。	防災意識が低い住民への啓発や避難路の整備を行うことが必要である。
		緊急避難場所(津波から一時的に避難する場所)を新たに指定した。	津波を伴う大規模地震時には避難場所へ迅速に避難する必要があり、緊急避難場所を増やすことで住民の安全を確保することができた。	緊急避難場所を更に増やしていくことで避難を円滑にするとともに、住民への周知を徹底していく必要がある
		平成27年に愛知県と合同で総合防災訓練を実施した。	避難行動訓練などを通じて住民の防災意識向上を図ることができた。	市職員には繰り返し訓練を実施して、災害対応力を高めていく必要がある。

<p>改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策 	<p>観光施設への回遊性の向上</p>	<p>市内に点在する観光スポットを迷わず移動できるように動線となる道路の路肩に着色舗装を行った。(回遊ルート整備事業)</p>	<p>視認性のある案内ルートを整備したことで、明確な案内が行えるようになり、回遊性の向上につながった。また、各観光スポットの結びつきを強めることが、観光客の滞在時間を延ばすこととなり、地域経済の活性化にも寄与している。</p>	<p>ハード事業として整備されたルートを、地図・チラシ等の配布やイベント等のソフト事業を展開する際には、着実に活用していくことが必要である。</p>
		<p>市の中央に位置する「半田赤レンガ建物」を各観光スポットを結ぶ中間拠点施設に位置付け、交通量の多い国道に接する位置に観光バス停留所を整備した。(都)土井山新居線)</p>	<p>観光バス停留所の設置により、観光中間拠点施設である半田赤レンガ建物の駐車場の利便性と安全性が向上し、観光拠点機能の拡充が図られ、市内の回遊性が高まった。</p>	<p>観光バスでの立寄りにおける利便性の向上を伝えるとともに、他の観光スポットと連携した案内を旅行社等に対しPRしていく。</p>
		<p>観光客が訪れる主要施設に設置された観光案内板11か所の更新を行った。(観光案内板更新事業)</p>	<p>主要施設の周辺マップや観光施設の写真を更新するとともに回遊ルートを表示させることで観光客の利便性や回遊性の向上を図ることができた。</p>	<p>観光客が快適に観光施設間を回遊できるように、情報を適宜更新し、最新の状態に保つことが必要である。</p>
	<p>景観形成の推進</p>	<p>半田運河周辺を車で訪れる観光客のための蔵のまち東駐車場を案内する車両系サインの整備や同駐車場から半田運河へと誘導するための路面サインの設置を行った。(サイン整備事業)</p>	<p>半田運河を訪れる観光客に対する駐車場の利便性向上が図られた。</p>	<p>半田運河への集客向上のため蔵のまち東駐車場から半田運河までの道を楽しみながら歩けるような仕掛けづくりが必要である。</p>
		<p>半田運河周辺道路を観光客等がまち歩きを楽しみながら回遊できるように源兵衛橋以南の左岸側道路について、景観へ配慮した脱色アスファルトにより道路の高質化を行った。(半田運河周辺景観道路整備事業)</p>	<p>平成27年にオープンしたミツカンミュージアム(MIM)や蔵のまち公園の周辺道路の高質化を行うことにより、良好な景観が形成され観光客や住民から好評を得るようになった。</p>	<p>半田運河周辺道路の高質化未整備区間について整備の進捗を図り、運河周辺道路全体を高質化された道路で回遊できるようにする。</p>
		<p>新美南吉のふるさと岩滑地区において、観光客等がまち歩きを楽しみながら回遊できるように南吉ゆかりの資源周辺について、景観へ配慮した石張り舗装により道路の高質化を行った。(景観形成重点地区整備事業)</p>	<p>石張り舗装を行ったことにより良好な景観の形成が図られ、地区内の主要な観光スポットの動線となるルートであることが明確になった。</p>	<p>地区内の主要な観光スポットの動線となるルートについて、未整備区間において引き続き石張り舗装による高質化を進め、観光客が快適に回遊できるようにする。</p>
		<p>優れた景観の保全や形成に寄与する建築行為等に対し、助成を行った。(ふるさと景観形成支援事業)</p>	<p>優れた景観の保全や形成に寄与する建築行為等に対し、助成を行うことにより、景観の向上が図られ、市民の景観に対する意識向上につなげることができた。</p>	<p>引き続き、優れた景観の保全や形成に寄与する建築行為等に対し、助成を行い、地区内の景観保全・景観形成を推進する必要がある。</p>
	<p>歴史的価値を活かし、市民ニーズに合わせた公園整備</p>	<p>市民ニーズを踏まえ、衰退しつつあった桜を復活させるため、桜の大幅な補植や散策路の整備を行った。(雁宿公園整備事業)</p>	<p>桜の充実や散策路の整備により公園への来場者が増加した。</p>	<p>桜の名所として市民に親しまれるよう、適切に桜の維持管理を行う必要がある。</p>

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項
各観光施設の機能などの拡充	リピーターの確保などのため、観光施設などの魅力を高める設備機能の拡充や建物内の使用用途や展示物の見直しなどを行う。	平成29年度以降継続的に実施	長期的な視点を持って継続的に行っていく必要がある。